

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	東京大学	整理番号	1805
プログラム名称	生命科学技術国際卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	南学 正臣	プログラムコーディネーター	吉川 雅英

卓越大学院プログラム委員会における評価

〔総括評価〕 A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。
〔コメント〕 卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、医・工・薬・理を含む幅広い分野から優秀な学生を獲得し、多彩な学術分野の教員のサポートを通じて、学生の専門能力向上や専門外の知識・技術の修得を支援する学習環境が整備されている。また、講義や実践演習を通じて、学生の俯瞰力や展開力を養う取り組みも行われている。さらに、複数分野の審査員による QE や英語での研究発表を含む修了審査など、高いレベルの質保証システムが確立されているなど、高く評価できるプログラムである。一方で、コロナ禍の影響で企業インターンシップや海外留学の件数が計画を下回ったものの、改善の兆しが見えている。 修了者の成長については、優秀な学生はプログラムを活用し、原著論文の執筆や学会発表、異分野との共同研究などで多くの成果を挙げている。日本学術振興会育志賞、国際賞の受賞者もあり、修了生は国際ジャーナルや科学番組などでも活躍が紹介されている。国内外の大学や研究機関との共同研究も積極的に行われ、研究の幅を広げるとともに就職活動にも成果を活かしている。また、卓越大学院の取り組みが共同研究の契機となった事例もあり、通常の博士課程では得られない幅広い経験や独創性を涵養する教育が進められている。今後、卒業生と履修生間のネットワーク構築や、学生間や産学間の交流機会のさらなる拡充が求められる。 キャリアパスの構築については、プログラム修了生の進路はアカデミアに限らず多岐にわたり、民間企業への就職が最も多い。海外での就職者もコロナ禍の影響を受けながらも確認されており、キャリアパスの実績に特段の問題はない。企業や研究機関との交流を促進する全体会議や企業セミナーなど、多様な機会も提供されているが、修了生の進路情報の周知が不足している点が課題である。 大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、本プログラムでは、本部主導で合同コーディネーター会議を設置し、他プログラムとノウハウや課題を共有し改善を図る取り組みが進められている。また、SPRING GX との連携や学生選抜、教育プログラムの提供など、教員や事務局が全面的に協力し、異なる部局間の共同研究が促進され、高い成果を上げた例も認められる。プログラムは大学全体の改革の一環として効果的に位置づけられ、システムや金銭的支援を含めた継続的な発展が進められている。